## やまかた

雪を活かす~ ~雪と生きる

## 第13号

発行所 やまがたゆきみらい推進機構 村山市楯岡笛田 4-5-1 **〒995-0024** TEL:0237-47-8614 Fax :0237-55-5236 E-mail ykitamurasomu@pref.yamagata.jp

1

## 置賜地域に適した住宅の消融雪設備とは?」

やまがたゆきみらい「雪サロン」を米沢市で開

催

籾乾燥試験で目標達成 雪室の冷風を利用した

より どについて発表がありました。 0) 入しての良かった点や改善点に した。  $\mathcal{O}$ 11 設備のアンケート結果から設備  $\mathcal{O}$ ゆきみら て、 違った機種の効率的な使用法 の実証試験結果から見たタイプ 説明がありました。 1 最 方々約60名が参加されました。 克雪プラザにおいて、 亚 基調発表がありました。 結果と融雪槽の性能」と題 初に山形大学教授東山禎夫氏 |消融雪設備利用者のアンケ 成 ユーザー目線にたった内容 会員の他に市内の 2 2 11 年 「雪サロン」 1 0 月 日に また、 やま を、 開催しま 般住民 がた 融雪 米沢 融雪 に訪れ、

が行われました。 消融雪設備に関する意見交換会 に発表者と会場の参加者による ピーチをいただきました。 社5組の 開発等の 続 ľ١ て、 会員の 取組状況につい 企業から、 消 融雪事 各社の技 業者 ・てス

業者等よる耐雪屋根住宅の 技術の展示や3社の住宅・設 融雪設備業者7社6組の ル展示が行われました。 また、 別会場に お 11 て は 商 パネ 品 消 Þ

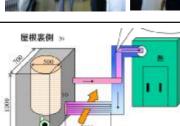
ぎわいました。 習の児童も見学 小学校の校外学 大変に 西部

待されます。

当日は、









学の

山教授と学生の方々に

1

成果を得られました、

大

表するもの

であります。

この装置を立案・制

素晴 山形



した。 に向けた取り組みの検討が れたわけで、 を利用しての籾乾燥が検証さ ました。このことにより雪室 結果15%を再度クリアーでき 日から23日まで行いました。 するために2回目の試験を**15** が出来ました。 以下にまでに乾燥させること 験を開始しました。 23%程度の籾が ステムで、 熱を利用した改良タイプの 利 雪部会では、 10 9 月 月 4日から1回目 実証試験を行 28日に機械を設 今後は、 再現性を確認 10 日 で 15 今年度: 水分約 実用化 1 外  $\mathcal{O}$ % 期 ま 実

短期間 たり、 ŋ 一同切に望んでいるところでもあされることを袖崎雪室研究会会員 燥が試験で終わることなく実用化 と思っております。 張り合いのある作業でもありまし が、行くたびに乾燥が進んでおり、 事な要素であることが証明されま が下がることから、乾燥温度も大した。朝より夕方のほうが測定値 で回転させ撹拌するものです。 日間朝夕2回籾の水分を測定し っます。 同切に望んでいるところでも 籾の入った容器を、 気熱で暖め、 2回試験を行いましたので、 今回の装置は、 今後太陽光で温度を上昇させ 測定に行くのは大変でした での乾燥が期待されるも 籾を自動撹拌することで、 その空気を籾に送 雪室内の冷気を 雪冷熱の 1 日 2 回 籾 ま 20 手

後で15%以下にまで乾燥すると は、 う立派な成績で終了しました。 室の冷風 水分23%程度の籾が10 を利用した籾乾燥 日前

## 籾乾燥試 験に関わっ

(利雪部会幹事) の

言